

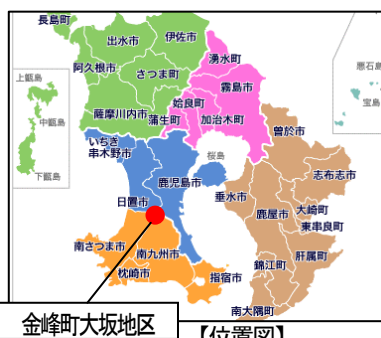
モデル事業名	元気集落「高齢化率60%」からの挑戦
活動団体名	特定非営利活動法人プロジェクト南からの潮流
ホームページ	http://ww61.tiki.ne.jp/~npo-kaseda/
所属/ 担当者名	事務局/田端順子
連絡先	TEL0993-52-7829 FAX0993-78-3911 Eメール npo-kaseda@mx61.tiki.ne.jp
活動地域	鹿児島県南さつま市金峰町大坂地区(長谷・大平・黄和田集落)

● 活動地域の概要

鹿児島県南さつま市大坂地区は、14の集落で形成されている。世帯数の動向に見られるように、特に今回対象地域にしている長谷集落・大平集落・黄和田集落の3集落は、世帯数及び人口減が顕著に見られる。また高齢化率が年々高くなっている。特に長谷集落においては高齢化率80%を超えている。公共交通もなく産業もない高齢者が寄り添って生活をしているところである。

世帯数	H3	H8	H13	H18	H21
大平	21	18	18	17	18
黄和田	35	35	34	28	28
長谷	27	25	23	24	17

人口	H3	H11	H16	H21
大平	44	33	34	33
黄和田	79	72	60	57
長谷	50	43	39	26



【位置図】



【長谷集落にある稚児の滝】



【過疎化が進む山間部地域】

● 活動地域の課題

鹿児島県南さつま市金峰町大坂地区は、地区内の高齢化率が60%を超える地域で地域コミュニティの維持・存続がやぶまれ、当地域の長谷集落においては、平成18年度からNPO法人プロジェクト南からの潮流と地域住民が都市住民との交流事業を中心とした共生協働事業に取り組み、平成20・21年度は、地域住民・行政・NPO法人が一体となって「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業に取り組んできた所である。交流人口は増え、地域の活性化も見られモデル事業として視察等も増えてきた事は評価に値すると思われる。しかしながら、今までの活動を通して、未だ基幹となる産業はなく、また人口減が続き、地域住民の先が見えないらしの解消にはいたっていない。今後の大きな課題である。

●活動の内容

(全体)平成22年度

- ① 平成21年度地域森林環境づくり促進事業「木のあふれる街づくり事業」(鹿児島県)の事業で<ちごの滝研修館>が完成。
- ② 集落活性化対策事業(南薩地域振興局)
- ③ 体験ツアー



ちごの滝研修館にて陶芸教室

(最近一年間の進捗など)

「木のあふれる街づくり事業」で完成した<ちごの滝研修館>は、宿泊施設も完備している。ツアー客等の陶芸教室や蕎麦打ち体験・食事の場所にもなり、一部には陶芸の販売コーナーもでき、来訪者が目にとめている。また、この春宿泊施設の寝具・洗濯機・テレビ等を完備し、陶芸の火入れ等のボランティアの宿泊や夏休み中の「いなか暮らし」体験等に利用される。また、集落活性化対策事業では、鹿児島大学生といっしょになって、稚児の滝周辺景観づくり作業の草払いなど積極的に関わりまた陶芸についても火入れの時一緒になって薪入れ等協働作業を行っている。陶芸は南さつま市の3ヶ所の道の駅で販売継続中であり、体験ツアーも継続中。

●活動の成果

・全体

南さつま市金峰町長谷地区は、現在16戸・26人・平均年齢78歳と毎年1人2人人口減が続いている。しかしながらこの地に縁のある人々が近辺から集まり、陶芸の体験教室や火入れ等活動の主力メンバーになって、自主的に活動を行うようになってきた事は、地域の自立につながる第1歩と期待している。

稲刈り・蕎麦植えなどの体験教室など年間70日余りの活動日があり、地域住民は、自主的にお茶入れや花植えも行い、元気集落というキャッチフレーズが身につけてきました。

6月より高齢者の「おしゃべりサロン」を月 第1と第3水曜日に開き、楽しく行っている。金峰町大坂地区から20人余の元気な高齢者が、1日すごしている。



おしゃべりサロンの様子

・最近1年間の成果など

平成22年度「過疎地域自立活性化優良事例表彰」で総務大臣賞を授与。

全国から4団体のうちのひとつに選ばれた。タイトルは、元気集落「高齢者60%」からの挑戦～南さつまの地から新たな交流を目指して～。

委員長講評として、「鹿児島県南さつま市のNPO法人プロジェクト南からの潮流は、旧加世田市で吹上浜砂の祭典などに協力してきたが、合併後全市が過疎指定となる中で山間の小集落の厳しい状況に出会い、「登り窯」の築造と陶芸教室の開設、地元での

「おしゃべりクラブ」の運営等、交流によって地元が元気集落になるお手伝いを精力的に行っている事を評価した。同法人の活動においては、住民はもとよりボランティア・

行政職員などの集落活動への積極的な参加が促進され、多様な主体の連携・協力による地域づくりの仕組みが確立されており、過疎地域が将来にわたって自立・活性化していく効果的な手法の一つとして外部の力を有効に活用しているモデル的な取組といえる。」、とのこと。



「ちごの滝窯」の火入れ

● 今後の課題及び展望

・課題

稚児の滝周辺に、「ちごの滝交流館」「のぼり窯」「稚児の滝研修館」と数年前までは何もなかった地域に3つの建物ができました。交流人口は、毎年増えています。体験を含めて五千人の人がやってきます。ツアー客中心の昼食のメニューに「そばんずし」という郷土食を入れて地域の人々が作って、大好評です。いろんな環境は整いつつあります。

足りないものはなにか。経済的な自立。「新たな公」をはじめ、たくさんの応援をいただいています。これからは、自立していく経済的力をつける事だと考えています。

・展望

株式会社「長谷」を考えています。

間伐材の利活用の分野に経済的自立を目指そうと考えます。長谷地区は、周囲を山で囲まれ、間伐も行き届かず荒れています。現在、チェンソー・林内作業車・まき割り機の準備を考えています。

森林組合に勤めていた人の指導をうけて、間伐材の利活用(枕崎の鯉節会社や山川の鯉節会社への販売)をし、一定の収入を得る事によって、「新たな公」で進めてきた陶芸教室やツアーの受け入れ等の継続を図りたいと考えています。

新たな人口増を図る対策を取っていく事が今後の使命であり、交流人口は増えても定住人口を増やさなければコミュニティの明日はみえない。鹿児島県南さつま市大坂地区、特にここ長谷は、林業で長年生計をなしていた今でも細々とシイタケ栽培をしている。地域特産品販売所で最初に完売するのは、このシイタケである。

稚児の滝周辺は杉山とクヌギ等の雑木でおおわれているので、このクヌギ等の雑木を利用し、おおがかりにシイタケ栽培に取り組み、乾燥機等を揃え、シイタケ・ヒラタケ・キクラゲ栽培に来年度から取り組み、雇用も含めて、働く環境を整える取り組みを検討している。